

理科 第4学年 ○冬の生き物 検討会の想定問答

指摘 1: 本時で何を見取るのか。

返し: 既習の内容や生活経験を根拠に、「寒い季節の生き物は、どこでどのように過ごしているだろうか」について予想を立て、調べた事実と関係付けて表現している。結論だけではなく、どの事実を選び、なぜその事実で説明できると考えたかを見る。B(2)の学習を具体的な記録で確かめる。

指摘 2: 活動だけで終わらないか。

返し: 秋と同じ木・場所を観察し、葉が落ちた枝の芽、地面近くの植物、動物の見付かる場所を記録する。気温と観察条件を付けて秋の記録に重ねる。見付けられない生物は公的資料で冬の過ごし方を調べる。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。B(2)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3: 予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し: 葉がないから木が死んだという考えには枝の芽を観察する。動物を見つけるために石や落葉を動かす場合は必要最小限とし元に戻す 予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。B(2)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4: 説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し: 比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。暖かさと生き物の様子を関係付ける活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5: 安全や個人への配慮は何か。

返し: 寒さ対策を行い、凍結した場所へ行かない。冬眠中の生き物を無理に起こしたり巣を壊したりしない 実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、B(2)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6: 資料やICTはどのように使うか。

返し: 秋と同じ木・場所を観察し、葉が落ちた枝の芽、地面近くの植物、動物の見付かる場所を記録する。気温と観察条件を付けて秋の記録に重ねる。見付けられない生物は公的資料で冬の過ごし方を調べる。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7: 時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し: 全3時間は啓林館の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「寒い季節の生き物は、どこでどのように過ごしているだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8: 振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し: 「寒い季節の生き物は、どこでどのように過ごしているだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。春へ続ける観察の問いを書く活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

